

2/1ちよつと早い豆まき開催 福山城天守閣前へ2万個の福豆

2日まで節分向けの各種商品も

明治2年（1869年）

創業の、豆菓子や野菜・果物チップスを製造・販売する徳永製菓（株）（福山市胡町4-21、上迫豊社長、電084・922・2710）は2月1日（土）午前10時から、ちよつとだけ早い豆まき「福まき」を福山城天守前の特設会場で催すII写真上。昨年は5千人の人数があり、今年は1万人の来場を見込んでいる。

今回は2万個の豆を用意し、10時30分からおよそ1時間ごとに特設ステージ上からまく（5回目は午後3時から）。毎回500人程度の入場制限を設けているが、



入手できなかった場合も先着500人に福豆がプレゼントされる。

豆は福まき専用デザインフィルムで包んだテトラポット入りで、人気商品8種類がまかれる。協力企業の協賛品なども昨年以上のボリュームで入る予定。今年5月に開催される世界バラ会議ふくやま大会に向けて開発した「バラ豆」も提供される。

また、幼い子ども向けの豆まきや安心して遊べるゲームコーナーなども用意。ステージでは、府中市出身の太鼓ユニット「我龍—GARYU—」の演奏や大道芸などのパフォーマンスも予定されており、飲食屋台なども多数並ぶ。

同社では、今年の節分（2月2日（日））に合わせ、同日まで限定の商品を用意。

縁起の良い「勾玉豆」（カシューナッツを翡翠の勾玉のように仕上げた豆菓子）や節分といえはの「いわし豆」など人気の豆菓子をセットにした「節分詰合」（税込2300円）や、竹炭豆が詰まった「鬼の金棒」（同648円）、鬼の面が入った「福ふく豆」（同1296円）や「福豆まき」（同756円）などを販売しているII写真下。

なお、1月の新作は「いちご大豆」（65g入り、同459円）で、国産大豆にさつくりとした生地をまき、福岡県産あまおう苺で仕上げた。優しくて、甘酸っぱい春の味わいがあり好評だという。



いちご大豆